

都市再生整備計画 事後評価シート
早来地区

平成30年 2月

北海道 勇払郡 安平町

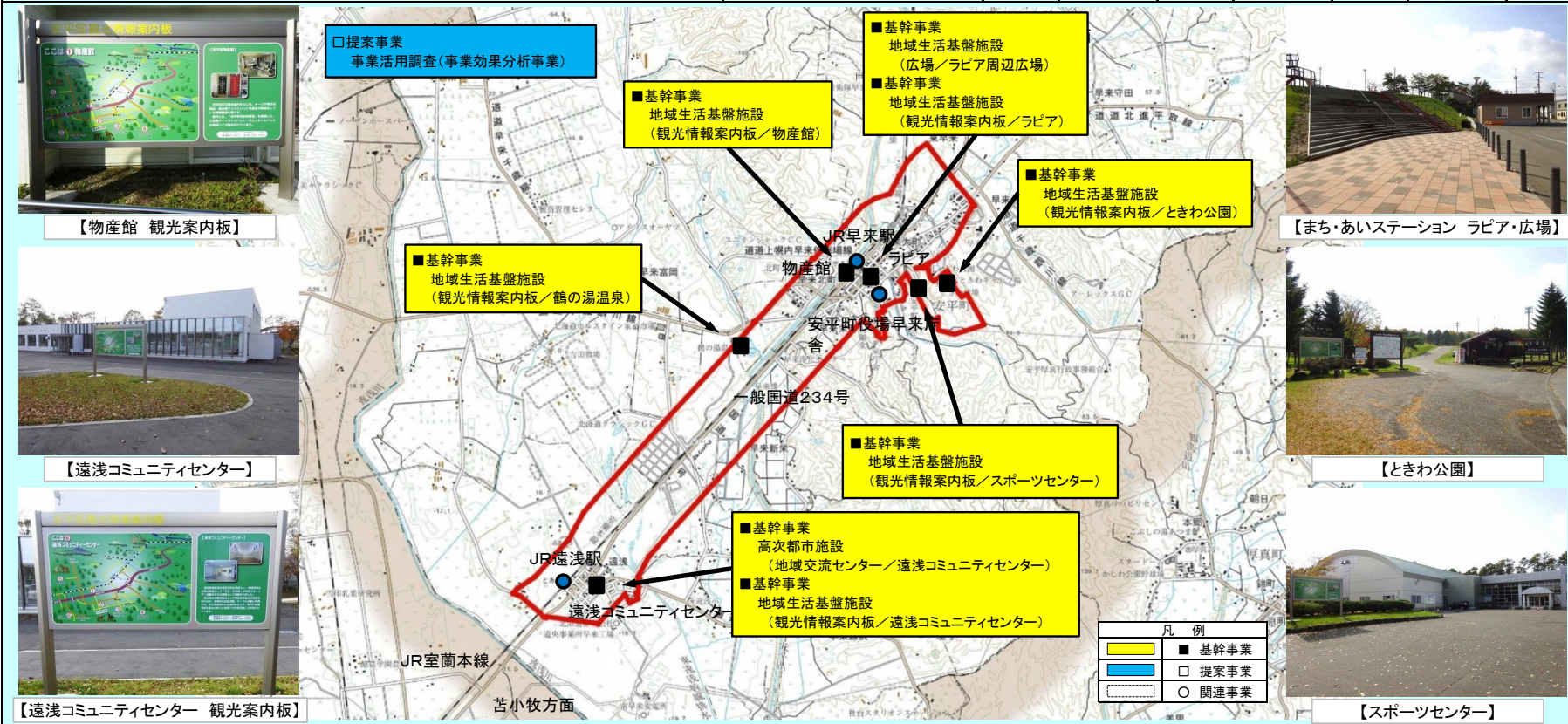
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	安平町		地区名	早来地区		面積	824ha			
交付期間	平成27年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	322百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(観光情報案内板、まち・あいステーション ラビア周辺広場)、高次都市施設(地域交流センター(遠浅コミュニティセンター))										
		提案事業	事業活用調査(事業効果分析事業)										
	当初計画から削除した事業	事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		基幹事業	—										
		提案事業	—										
新たに追加した事業		基幹事業	—										
提案事業	—												
交付期間の変更	当初変更	平成27年度～平成29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期		
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	まち・あいステーション ラビアの年間利用人員	人	3,830 H25	4,000 H29		5,691	○	あり なし	ラビア周辺広場の整備後、広場を目的とした利用者がラビア施設も利用するなど、一体的な利用が増加した。また、広場が整備されて大規模なイベントが開催されるようになった結果、イベントによる来場者も増加した。	—		
	指標2	遠浅コミュニティセンターの年間利用人員	人	6,145 H25	6,400 H29		7,527	○	あり なし	遠浅コミュニティセンターの整備後、図書館、幼児室、運動スペースなどが増えて施設利用の幅が広がったことで、生涯学習の活動が活発になり利用者数が増加した。また、観光情報案内板の設置により観光情報を提供する機能を持たせたことで、来訪者の回遊性に寄与した。	—		
	指標3												
指標4													
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期		
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	ラビアイベントの参加者数	人	465 H25			1,009			ラビア周辺広場整備により広場が拡大し、従来よりも大規模なイベントが開催可能となった。イベントの規模が拡大されたことによりイベントの参加者数が増加し、にぎわい創出効果がみられた。	—		
その他の数値指標2													
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ラビア広場整備後、ロビーコンサートやライブ、冬場の雪上イベントなど、新たな催しが増えたことで、地域外からの集客が増えた。 遠浅コミュニティセンターの整備により地域住民の活動や交流の場が増加し、「生きがいのあるまちづくり」に寄与している。 												
5) 実施過程の評価	実施内容					実施状況			今後の対応方針等				
	モニタリング	—				都市再生整備計画に記載し、実施できた							
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
住民参加プロセス	—				都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
持続的なまちづくり体制の構築	—				都市再生整備計画に記載し、実施できた								
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した								
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

早来地区(北海道勇払郡安平町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標 北海道安平町の資源を活かした回遊観光・地域間交流推進を契機とする急激な人口減少に負けない地域力の醸成 目標1：観光客と地域住民とのコミュニケーション広場としてラビア周辺を整備する 目標2：地域コミュニティ活動の活性化のためコミュニティセンターを整備し、回遊・交流の中核施設として観光客に対し観光情報を提供するなど観光人口拡大へと繋げていく	まち・あいステーション ラビアの年間利用人員	単位：人	3,830	H25	4,000	H29	5,691	H29
	遠浅コミュニティセンターの年間利用人員	単位：人	6,145	H25	6,400	H29	7,527	H29
	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—



まちの課題の変化

- ・ラビア広場の整備によりイベントでの利用が盛んになった結果、イベントに訪れた住民間のもとより、来訪者と地域住民との間に交流が生まれた。
- ・観光情報案内板の設置と遠浅コミュニティセンターの情報ステーションとしての機能により、来訪者の回遊への情報発信が図られた。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- ・地域住民と来訪者との交流を盛んにするため、来訪者の増加を促す取り組みとして、ラビア広場を活用したイベント等の充実や、遠浅コミュニティセンターの情報ステーション機能の充実等を図る。

都市整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

~~(2) 実施過程の評価~~

- ~~添付様式3-① モニタリングの実施状況~~
- ~~添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況~~
- ~~添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況~~

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

~~(7) 有識者からの意見聴取~~

- ~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		—	その他の数値目標の追加	ラピア周辺広場の整備によるにぎわい創出効果を評価するため追加。
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した、まちづくり目標、 目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
古都及び緑地保全事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設 (観光情報案内板)	—	7	7基	3	6基	観光情報案内板配置予定施設の閉鎖による事業量・事業費の減	当初、案内板の設置を想定していた施設が閉鎖されたことによる設置数の減であり、指標及び数値目標への影響無し。	●	
地域生活基盤施設 (まち・あいステーション ラピア周辺広場)	—	60	面積 約1,400㎡	57	面積 約1,400㎡	事業完了に伴う事業費の精査	事業費の精査による軽微な変更であることから、指標及び数値目標への影響無し。	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設 (地域交流センター(遠浅 コミュニティセンター))	—	260	732㎡	256	725.5㎡	事業完了に伴う事業量及び事業費の精査	事業費の精査による軽微な変更であることから、指標及び数値目標への影響無し。	●	
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									
住宅街区整備事業									

※ 1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備促進事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※ 1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業									
事業活用調査	事業効果分析事業	2	社会資本整備総合交付金、事後評価実施のための調査	1	社会資本整備総合交付金、事後評価実施のための調査	指標分析に係る既存データの活用による作業項目の減	データ収集手段の変更であり、指標及び数値目標への影響無し。	●	
まちづくり活動推進事業									

※ 1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
	—							
	—							
	—							
	—							
	—							

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度		基準 年度		目標 年度		モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	まち・あいステーション ラピアの年間利用人員	人	まち・あいステーション ラピア供用開始(平成25年9月)以降の期間(1年間)の利用者数を従前値とし、平成28年9月～平成29年8月における施設及び広場の利用者数を評価値とする。		—	—	3,830	H25	4,000	H29	モニタリング			モニタリング		
											事後評価	確定 見込み	●	5,691	事後評価	○
指標2	遠浅コミュニティセンターの年間利用人員	人	遠浅コミュニティセンター供用開始(平成28年8月)以降の1年間(平成28年8月～平成29年7月)における施設利用者数を評価値とする。		—	—	6,145	H25	6,400	H29	モニタリング			モニタリング		
											事後評価	確定 見込み	●	7,527	事後評価	○
指標3											モニタリング			モニタリング		
												確定 見込み				
指標4											モニタリング			モニタリング		
												確定 見込み				

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	ラピア周辺広場の整備後、広場利用者がラピア施設も利用するなど、一体的な利用が増加した。また、広場が整備されて大規模なイベントが開催可能となり、イベントによる来場者も増加した。	
指標2	遠浅コミュニティセンター整備により、運動スペース、図書館、幼児室などの機能が強化されたことに合わせ、多様な利用目的に対応できる施設整備により、施設利用の幅が広がり利用者数が増加した。また、観光情報案内板の設置とコミュニティセンターの情報ステーションとしての機能により、来訪者の回遊性を促す情報を発信する機能が備わった。	
指標3		
指標4		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	イベントの参加者数	人	—		465	H25	モニタリング			1009	ラピア周辺広場の整備により 効果が顕著に発現しているた め。
							事後評価	確定 ●	見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・ラピア広場整備後、ロビーコンサートやライブ、冬場の雪上イベントなど、新たな催しが増えたことで、地域外からの集客が増えた。
- ・遠浅コミュニティセンターの整備により地域住民の活動や交流の場が増加し、「生きがいのあるまちづくり」に寄与している。

(2)実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	実施状況			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	実施状況			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
	実施状況		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
第4回 回遊・交流ステーション形成検討委員会	企画財政課、まちづくり推進課、教育委員会社会教育グループ、建設課、水道課、農林課、施設課	平成29年12月 5日	企画財政課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		その他指標3					
指標名		まち・あいステーション ラビアの年間利用人員		遠浅コミュニティセンターの年間利用人員		イベントの参加者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設(観光情報案内板)	○	ラビア周辺広場の整備後、広場を目的とした利用者がラビア施設も利用するなど、一体的な利用が増加した。また、広場が整備されて大規模なイベントが開催されるようになった結果、イベントによる来場者も増加した。	○	遠浅コミュニティセンター整備により、運動スペース、図書館、幼児室などの機能が強化されたことに合わせ多様な利用目的に対応できる施設整備により、施設利用の幅が広がり利用者数が増加した。 また、観光情報案内板の設置により観光情報を提供する機能を持たせたことで、来訪者の回遊性に寄与した。	○	ラビア周辺広場整備により広場が拡大し、従来よりも大規模なイベントが開催可能となった。イベントの規模が拡大されたことによりイベントの参加者数が増加し、にぎわい創出効果がみられた。				
	地域生活基盤施設(まち・あいステーション ラビア周辺広場)	◎		—		◎					
	高次都市施設(地域交流センター(遠浅コミュニティセンター))	—		◎		○					
提案事業	事業活用調査	—		—		—					
関連事業											

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も広場、及びラビア施設において、にぎわい、憩いとくつろぎの場や特産品情報、観光情報を提供し、早来ゾーンの「回遊・交流ステーション」として、地域住民と来訪者との交流機能を維持し、交流人口の拡大と地域活性化を図る。	今後も、地域住民の活動拠点及び地域の防災避難所としての機能を維持し、地域のコミュニティの増進を図る。また、来訪者に対する「情報ステーション」として観光情報を提供し、回遊性を増進させる。	これまでの取組を維持しつつ、さらに地域住民、来訪者を対象としたイベントを増やすことにより、交流人口の拡大と地域活性化を図る。		
-------	---	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別													
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
第4回 回遊・交流ステーション形成検討委員会	企画財政課、まちづくり推進課、教育委員会社会教育グループ、建設課、水道課、農林課、施設課	平成29年12月 5日	企画財政課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
住民間や観光客の回遊・交流が不十分	まち・あいステーション ラビアの広場を整備し、イベント数が増えたことにより、地域住民と来訪者との交流が生まれた。また、遠浅コミュニティセンターでは観光情報案内板の設置等により、回遊への情報発信が図られたほか、施設整備により、地域住民の学習・スポーツの取組、芸術・文化活動が盛んになった。		
地域内の機能のつながりの再創造	回遊観光・地域間交流の拠点施設(回遊・交流ステーション)であるラビアや遠浅コミュニティセンターに加え、物産館、ときわ公園、スポーツセンター、鶴の湯温泉など来訪者が多い地点に観光情報案内板を設置した。案内板の効果により、地域内の観光スポットをつながりをもったルートとして情報発信することができた。		
地域の魅力や特徴を発信する機能施設が不十分	観光情報案内板や遠浅コミュニティセンターなどの情報発信機能の新設により、来訪者の回遊性を促す機能が向上した。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	来訪者と地域住民との交流の促進	地域住民と来訪者との交流を盛んにするため、来訪者の増加を促す取り組みとして、ラビア広場を活用したイベント等の充実や、遠浅コミュニティセンターの情報ステーション機能の充実を図る。	ラビア広場を活用したイベント等の充実 回遊交流の拠点施設における観光情報発信の強化

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
—	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
—	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	まち・あいステーションラビアの年間利用人員	人	3,830	H25	4,000	H29	確定 ●	5,691	○	あり	→	—	—	—
							見込み			なし				
指標2	遠浅コミュニティセンターの年間利用人員	人	6,145	H25	6,400	H29	確定 ●	7,527	○	あり	→	—	—	—
							見込み			なし				
指標3							確定			あり	→			
							見込み			なし				
指標4							確定			あり	→			
							見込み			なし ●				
指標5							確定			あり	→			
							見込み			なし				
その他の数値指標1	イベントの参加者数	人	465	H25	/	/	確定 ●	1,009	/	/	→	—	—	—
その他の数値指標2							確定			/	→			
							見込み			/				
その他の数値指標3							確定			/	→			
							見込み			/				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	本事業により整備された施設と情報発信機能との連携により施設利用が促進され、まちあいステーションラピア、遠浅コミュニティセンターの両施設とも、目標としていた年間利用人数を上回る結果となった。	施設整備効果が最大限になるよう、整備施設等の相互的・相乗的な活用方法を検討した上で、今回、指標として用いた年間利用人数のように、数値として客観的に把握できる指標を立てることとする。
	うまくいかなかった点	特に無し	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	目標を定量化する指標(上記2施設の年間利用人数)と、事業の目標である「交流人口の拡大」は直結するため、数値目標の設定と事業内容(交流の場や情報発信機能の整備)との整合性が取れていた。	今回同様、当初設定した数値目標以外にも事業の効果発現が計測できるよう、関連統計値に関する事業前後の数値収集に努める。
	うまくいかなかった点	特に無し	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	上記2施設とも、設計の段階で集約した住民意見を反映した施設となった。	今後も、住民意見に配慮し、住民に親しまれる公共施設の整備に努める。
	うまくいかなかった点	特に無し	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	特に無し	
	うまくいかなかった点	特に無し	
その他	うまくいった点	特に無し	
	うまくいかなかった点	特に無し	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後、都市再生整備計画事業の活用予定
なし

・事後評価を予定している地区
安平町「追分地区都市再生整備計画」

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成29年12月15日～ 平成30年 1月15日	平成29年12月15日～ 平成30年 1月15日	メールでの意見集約	企画財政課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	企画財政課窓口での閲覧	平成29年12月15日～ 平成30年 1月15日	平成29年12月15日～ 平成30年 1月15日	窓口での意見聴取	企画財政課

住民の意見	
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員		平成29年12月 6日	企画財政課	既存機関を活用 (回遊交流戦略検討会)	既存組織(回遊交流戦略検討会) そのものを位置づけ。
その他の委員	商工会長、商工会事務局長、商工会理事 観光協会事務局長、観光協会理事 道の駅農産物生産者協議会委員 金融機関職員、地域住民 役場関係課職員				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価 手続き等にか かかる審議	方法書	・事後評価のプロセスについて確認された。
	成果の評価	・目標が達成されたことについて評価された。 ・対外的だけでなく、町民に対しても観光スポットの情報提供を行っていく必要があるとの意見が出された。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・事業整備による効果発現要因の整理について共通認識が図られた。 ・今後、追分地区都市再生整備計画で整備される道の駅や観光情報案内板整備との連携により、効果発現を持続できるよう意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・今後、町民に対して公表するものとし、町民意見の結果によっては、第2回審議会開催の要否の判断が必要になるとの意見があった。 ※町民意見無しの場合は本会議にて完結
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後の まちづくりに ついて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策の作成にあたり、事業効果を継続させるための方策について確認された。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について、着手していくべき課題は妥当と認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7)有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--